午後2時から始まります
しばらくおまちください

オンライン参加のみなさま
にお願いします

主催者が記録のために録画して
おりますが、参加者の皆さんの
録音・録画はご遠慮ください

マイクオフ・ビデオオフで
ご参加ください

本日のプログラム

▲開会のご挨拶および開催趣旨の説明　　高田やすこ

▲子宮頸がんワクチン研修会
　知ってほしいHPVワクチンの現状　　隈本邦彦
（薬害オンブズパースン）

休憩

▲質疑応答

▲参加者の方々からひとこと　　→16時半終了予定

子宮頸がんワクチン研修会

知ってほしいHPVワクチンの現状

薬害オンブズパースン会議
元NHK記者

隈本邦彦

自己紹介

1980年　NHK入局
1986年　報道局特報部
1989年　報道局社会部厚生省担当（MMRワクチン薬害取材）
1991年　報道局特報部医療学術担当
2005年　北海道大学特任教授
2008年　江戸川大学教授
2011年　名古屋大学客員教授（兼任）

制作番組：NHKスペシャル「院内感染」「カルテは誰のものか」「新薬はこうしてテストされる」など多数

自己紹介

薬害オンブズパースン会議メンバー

HPVワクチン東京訴訟支援ネットワーク代表世話人

医療事故防止・患者安全学会代表理事

医療事故調査制度　総合調査委員会委員

HPVワクチンについて迷っている方へ

- いまは推進に偏った情報しかほとんど報道されません

- 子宮頸がんには他の予防方法があります

  検診という害の少ない代替手段があります

- 人間には”様子を見る“という知恵があります

  “タダより高いものはない”という言葉もあります

  →国の公表資料などをよく読んで考えてみましょう

2022年4月約9年ぶり接種勧奨再開
厚労省はリーフレットで宣伝

誤解していませんか

- ワクチンは改良された？
- 当時の被害者は治っている？
- 当時の報道が間違いだった？

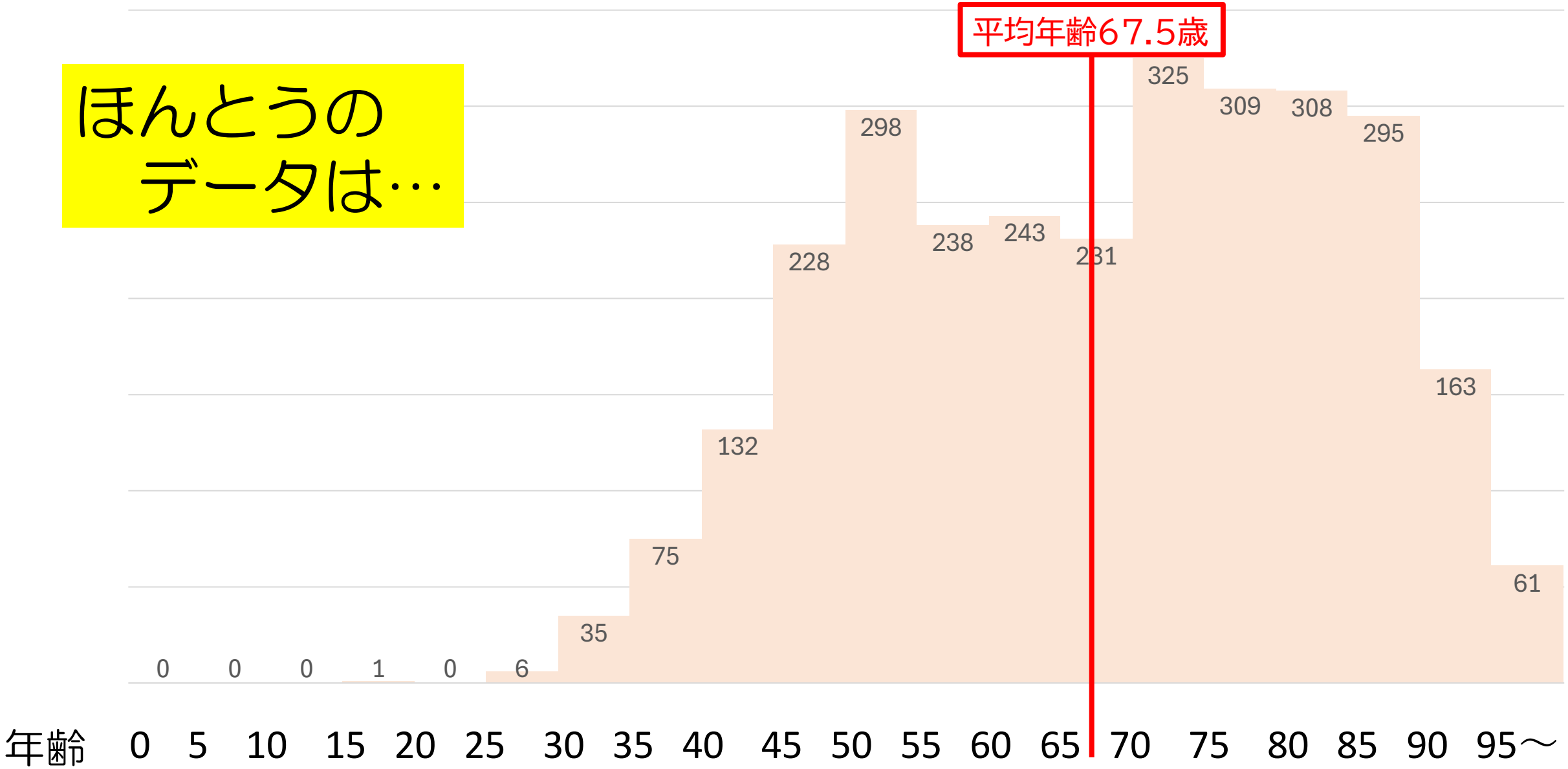
いずれも違います
宣伝リーフレットには
そんなことは書いてありません

子宮頸がんは若い女性に増えている
怖いがんというイメージを強調するが

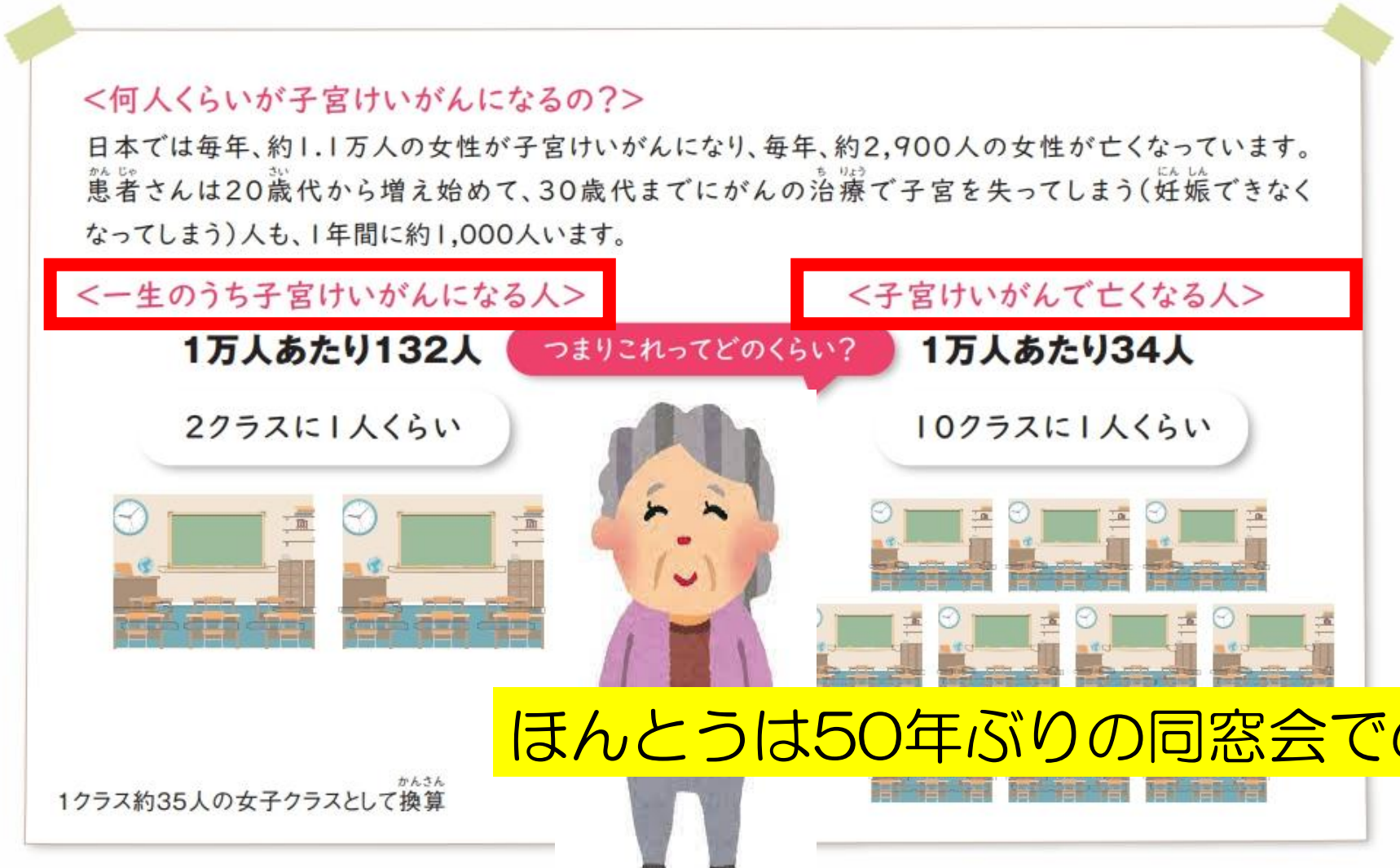
子宮頸がんによる死亡者数（人）

国立がん研究センターによる（2023）

ほんとうの
データは…



子宮頸がんは若い女性に増えている
怖いがんというイメージを強調するが

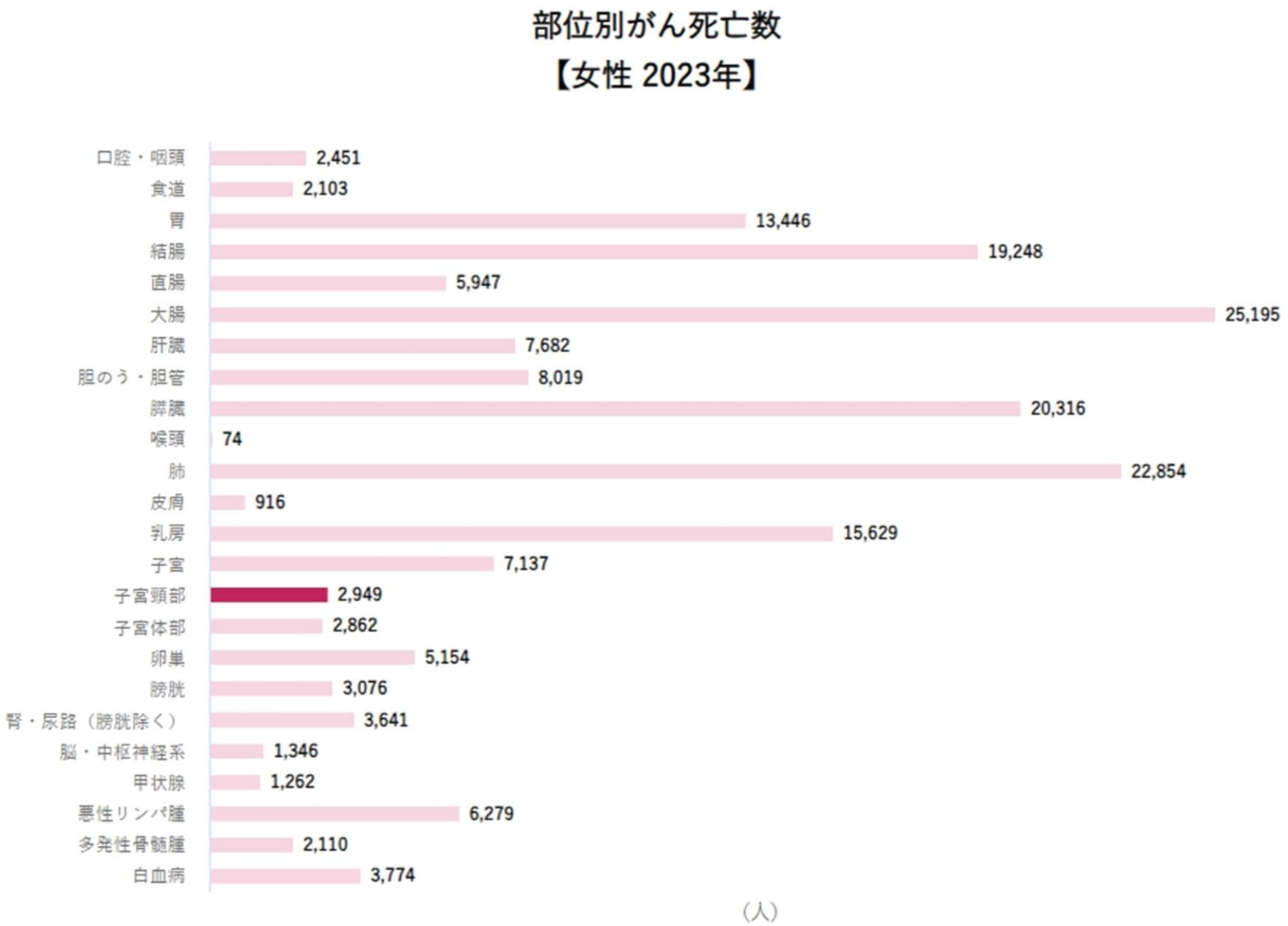


ほんとうは50年ぶりの同窓会での話題？

ほんとうの
データは…

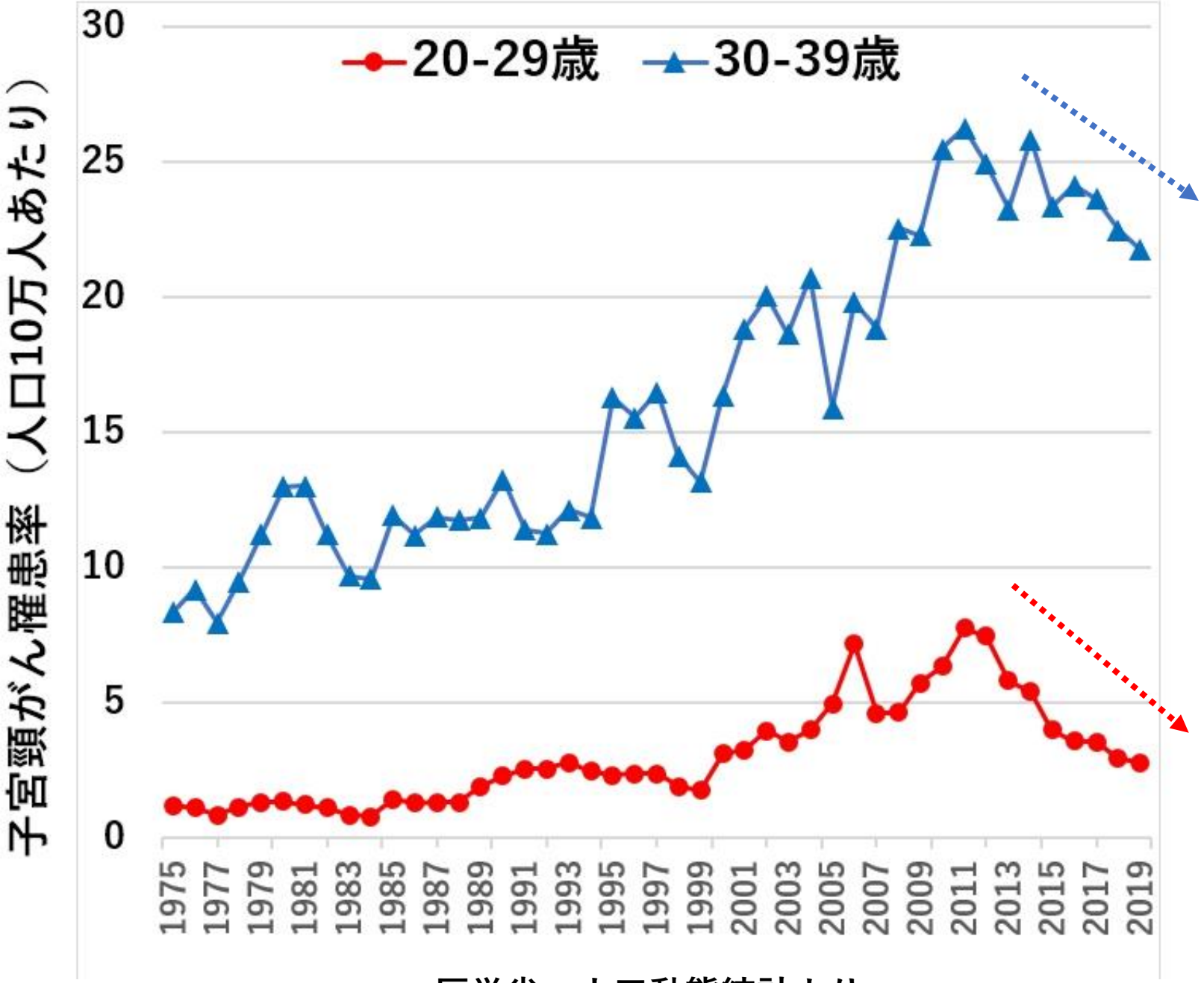
厚労省の
人口動態統計

1）ほかのがん種と比べるとどのくらいの頻度か



厚労省の
人口動態統計

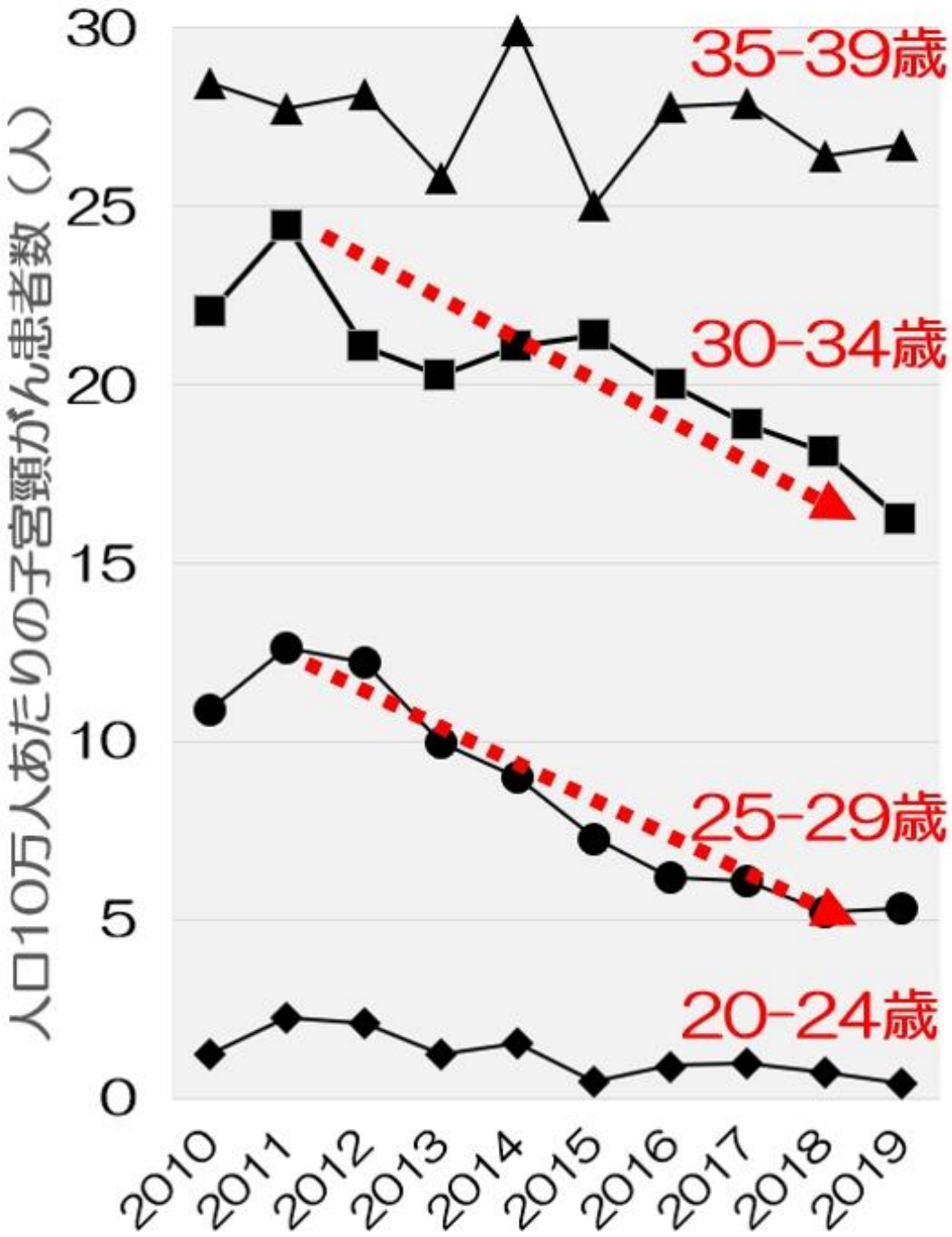
実際には
2011年以降
日本の
30歳未満の
子宮頸がんは
減っている



厚労省・人口動態統計より

でもこれは
ワクチンの
効果ではない！

でもそのことは
まったく
広報されず
報道もされない



各世代の
ワクチン接種率は
→ほぼ0％

→ほぼ0％

→ほぼ0％

→ある程度
接種者がいる

一方接種によるリスクは？
厚労省リーフレットによると

HPVワクチンのリスク

詳細版 P5

筋肉注射という方法で注射します。接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。

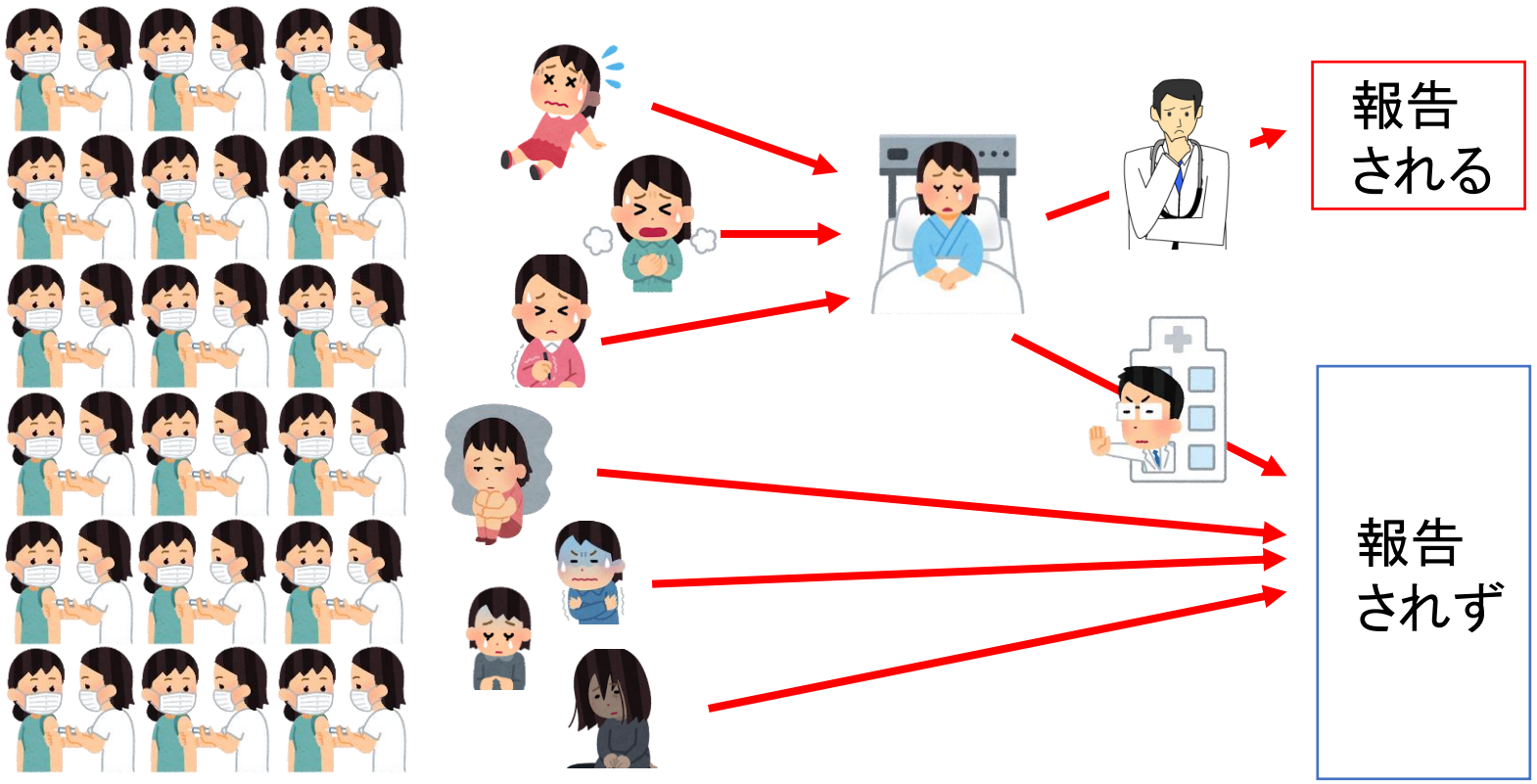
ワクチンの接種を受けた後に、まれですが、重い症状※1が起こることがあります。
また、広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動※2といった多様な症状が報告されています。

ワクチンが原因となったものかどうかわからないものをふくめて、
接種後に重篤な症状※3として報告があったのは、ワクチンを受けた1万人あたり約2～5人※4です。

接種するワクチンや年齢によって、合計2回または3回接種しますが、
接種した際に気になる症状が現れたら、それ以降の接種をやめることができます。
接種後に気になる症状が出たときは、まずはお医者さんや周りの大人に相談してください※5。

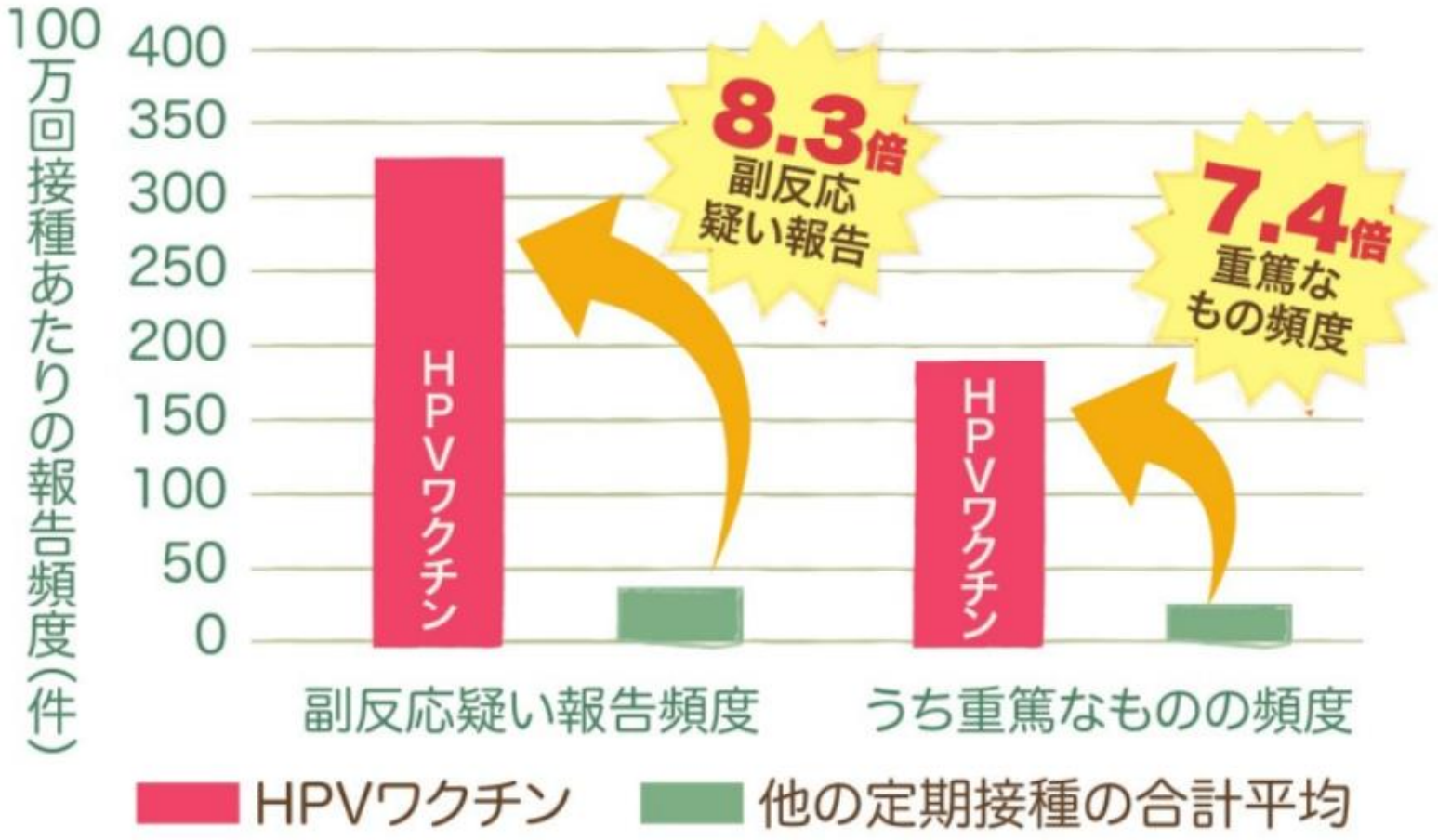
※1 重いアレルギー症状（呼吸困難やじんましんなど）や神経系の症状（手足の力が入りにくい、頭痛・嘔吐・意識の低下）
※2 動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまうこと
※3 重篤な症状には、入院相当以上の症状などがふくまれていますが、報告した医師や企業の判断によるため、必ずしも重篤でないものも重篤として報告されることがあります

副反応疑い報告は”氷山の一角”なのに



接種後の体調不良

１万人に２人から５人というのは他の定期接種ワクチンよりかなり高い



そしてその副反応の症状は多様

HPVワクチンの添付文書にも
そのことは書かれている

**2025年 1 月改訂（第 2 版）
＊2023年 3 月改訂（第 1 版、用法変更）

日本標準商品分類番号
876313

貯法：2～8℃、凍結を避けること
有効期間：充てん日から3年

ウイルスワクチン類

承認番号	30200AMX00746000
販売開始	2021年 2 月

生物学的製剤基準

組換え沈降9価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン（酵母由来）

シルガード®9 水性懸濁筋注シリンジ

劇薬
処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること

SILGARD®9 Aqueous Suspension for Intramuscular Injection Syringes

MSD

2. 接種不適当者（予防接種を受けることが適当でない者）
2.1 明らかな発熱を呈している者
2.2 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
2.3 本剤の成分に対して過敏症を呈したことがあることが明らかな者
2.4 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

3. 製法の概要及び組成・性状
3.1 製法の概要
本剤は、「3.2 組成」の項に示す9種類のヒトパピローマウイルス（HPV）各型のL1たん白質ウイルス様粒子（VLP）を含む懸濁液である。各型のVLPは、*Saccharomyces cerevisiae* CANADE3C-5（菌株1895）に各L1たん白質をコードするプラスミドを導入して確立した酵母株を培養し、発現したたん白質の自己集合により形成される。精製したVLPは、アルミニウム含有のアジュバント（アルミニウムヒドロキシホスフェイト硫酸塩）に吸着させ、アルミニウムを

4. 効能又は効果
ヒトパピローマウイルス6、11、16、18、31、33、45、52及び58型の感染に起因する以下の疾患の予防
○ 子宮頸癌（扁平上皮癌及び腺癌）及びその前駆病変（子宮頸部上皮内腫瘍（CIN）1、2及び3並びに上皮内腺癌（AIS））
○ 外陰上皮内腫瘍（VIN）1、2及び3並びに腟上皮内腫瘍（VaIN）1、2及び3
○ 尖圭コンジローマ

5. 効能又は効果に関連する注意
5.1 HPV6、11、16、18、31、33、45、52及び58型以外のHPV感染に起因する子宮頸癌又はその前駆病変等の予防効果は確認されていない。
5.2 接種時に感染が成立しているHPVの排除及び既に生じているHPV関連の病変の進行予防効果は期待できない。
5.3 本剤の接種は定期的な子宮頸癌検診の代わりとなるものではない。本剤接種に加え、子宮頸癌検診の受診やHPVへの曝露、性感染症に対し注意することが重要である。

8. 重要な基本的注意

8.1 本剤は「予防接種実施規則」及び「定期接種実施要領」に準拠して使用すること。

8.2 被接種者について、接種前に必ず問診、検温及び診察（視診、聴診等）によって健康状態を調べること。

8.3 被接種者又はその保護者に、接種当日は過激な運動は避け、接種部位を清潔に保つよう指導すること。また、局所の異常反応や体調の変化、さらに高熱、痙攣等の異常な症状を呈した場合は、速やかに医師へ連絡するよう指導すること。

8.4 ワクチン接種直後又は接種後に注射による心因性反応を含む血管迷走神経反射として失神があらわれることがある。失神による転倒を避けるため、接種後30分程度は座らせるなどした上で被接種者の状態を観察することが望ましい。

8.5 発生機序は不明であるが、ワクチン接種後に、注射部位に限局しない激しい疼痛（筋肉痛、関節痛、皮膚の痛み等）、しびれ、脱力等があらわれ、長期間症状が持続する例が報告されているため、異常が認められた場合には、神経学的・免疫学的な鑑別診断を含めた適切な診療が可能な医療機関を受診させるなどの対応を行うこと。

8.6 本剤と他のHPVワクチンの互換性に関する安全性、免疫原性、有効性のデータはない。

11. 副反応

次の副反応があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副反応

11.1.1 過敏症反応（アナフィラキシー（頻度不明†）、気管支痙攣（頻度不明†）、蕁麻疹（頻度不明†）等）

自己免疫疾患

11.1.2 ギラン・バレー症候群（頻度不明†）

四肢遠位から始まる弛緩性麻痺、腱反射の減弱ないし消失等の症状があらわれた場合には適切な処置を行うこと。

11.1.3 血小板減少性紫斑病（頻度不明†）

紫斑、鼻出血、口腔粘膜出血等の異常が認められた場合には、血液検査等を実施し、適切な処置を行うこと。

11.1.4 急性散在性脳脊髄炎（ADEM）（頻度不明†）

接種後数日から2週間程度で発熱、頭痛、痙攣、運動障害、意識障害等があらわれることがある。本症が疑われる場合には、MRI等で診断し、適切な処置を行うこと。

†本剤又はガーダシルの自発報告で認められた副反応

(4) 安全性

注射部位の副反応は、本剤接種後5日間に7,071例中6,414例（90.7%）に認められ、主なものは疼痛6,356例（89.9%）、腫脹2,830例（40.0%）、紅斑2,407例（34.0%）、そう痒感388例（5.5%）、内出血137例（1.9%）、腫瘤90例（1.3%）、出血69例（1.0%）であった。また、ガーダシル接種後5日間に7,078例中6,012例（84.9%）に認められ、主なものは疼痛5,910例（83.5%）、腫脹2,035例（28.8%）、紅斑1,810例（25.6%）、そう痒感282例（4.0%）、内出血134例（1.9%）であった。全身性の副反応は、本剤接種後15日間に7,071例中2,090例（29.6%）に認められ、主なものは頭痛1,033例（14.6%）、発熱357例（5.0%）、悪心312例（4.4%）、浮動性めまい211例（3.0%）、疲労166例（2.3%）、下痢87例（1.2%）、口腔咽頭痛73例（1.0%）、筋肉痛69例（1.0%）であった。

日本人においては、注射部位の副反応は、本剤接種後5日間に127例中104例（81.9%）に認められ、主なものは疼痛104例（81.9%）、腫脹57例（44.9%）、紅斑51例（40.2%）、そう痒感12例（9.4%）、出血5例（3.9%）、腫瘤4例（3.1%）、熱感2例（1.6%）、知覚消失2例（1.6%）であった。また、ガーダシル接種後5日間に127例中101例（79.5%）に認められ、主なものは疼痛100例（78.7%）、腫脹53例（41.7%）、紅斑48例（37.8%）、そう痒感14例（11.0%）、熱感4例（3.1%）、不快感3例（2.4%）、内出血2例（1.6%）であった。全身性の副反応は、本剤接種後15日間に127例中15例（11.8%）に認められ、主なものは頭痛5例（3.9%）、発熱4例（3.1%）、悪心3例（2.4%）であった。

接種勧奨再開によって
２０２４年度上半期までに約２２６万人が接種

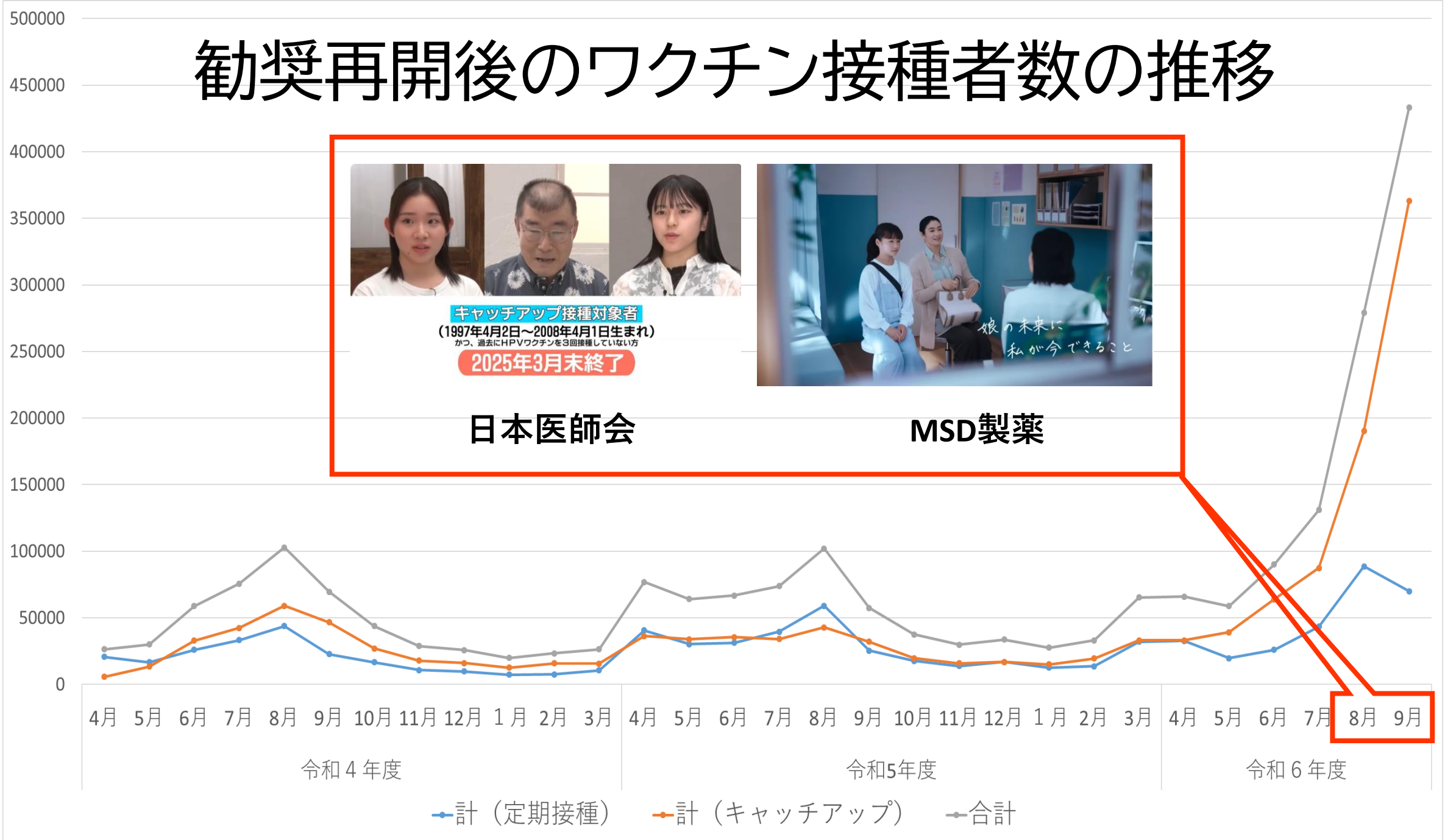
１回目の接種者合計　　約226万人

うちキャッチアップ接種　約142万人（63%）

勧奨再開後のワクチン接種者数の推移

日本医師会

MSD製薬



その結果何がおきたのか？
厚労省は接種後の症状を診る医療機関を指定

本文へ　お問合わせ窓口　よくある御質問　サイトマップ　国民参加の場

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

ホーム　Google カスタム検索　検索

テーマ別に探す　報道・広報　政策について　厚生労働省について　統計情報・白書　所管の法令等　申請・募集・情報公開

ホーム > 政策について > 分野別の政策一覧 > 健康・医療 > 健康 > 感染症・予防接種情報 > 予防接種情報 > ヒトパピローマウイルス感染症（HPVワクチン） > ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関について

健康・医療

ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関について

協力医療機関とは

ＨＰＶワクチンの接種後に生じた症状について、患者へより身近な地域において適切な診療を提供するため、各都道府県において協力医療機関が選定されています。

PDF （参考）令和４年6月6日一部改正「ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関の選定について」（健康課長通知）［PDF形式：57KB］

協力医療機関リスト

政策について
分野別の政策一覧
健康・医療
健康
食品
医療
医療保険

接種後に何かあっても対応は万全ですよ

その受診患者数は？

第100回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、 令和５年度第15回薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会	資料３-３
2024(令和６)年１月26日	

令和５年度厚生労働行政推進調査事業費補助金

（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）

「HPVワクチンの安全性に関する研究」

(研究代表者：岡部信彦)

国立成育医療研究センター　政策科学研究部
竹原健二・山本依志子

接種者が増えると患者数が増加していた

第102回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和6年度第4回薬事審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会
2024(令和6)年7月29日
資料 3-2

令和６年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）

「ＨＰＶワクチンの安全性に関する
フォローアップ研究」

(研究代表者：岡部信彦)

国立成育医療研究センター　政策科学研究部
竹原健二・山本依志子

2022年度									
4月分	62	65,466	33	6			2	0
5月分	67	72,324	35	6			3	1
6月分	66	121,807	45	9			5	0
7月分	65	140,073	45	13			4	1
8月分	66	193,107	47	15			4	1
9月分	69	159,885	54	15	39	7	2	6	0
10月分	65	155,356	53	18	35	7	8	3	0
11月分	69	125,470	57	16	41	7	6	4	0
12月分	69	113,542	52	9	43	5	2	2	0
1月分	65	99,641	42	14	28	8	2	4	0
2月分	69	109,865	46	6	40	3	1	1	1
3月分	67	216,905	57	10	47	7	1	2	0

※1　9価ワクチンを含む　※2　1ヶ月内の複数回受診は1人とカウント　※3　新規患者のみ対象

3

2022年度
新規受診患者
137人

2023年度									
4月分	67	197,007	29	8	20	4	1	2	1
5月分	62	90,551	34	5	29	5	0	0	0
6月分	64	143,330	56	18				1	4
7月分	64	143,566	40	10				0	0
8月分	63	210,165	57	13				3	0
9月分	63	120,944	56	21				0	1
10月分	62	124,802	42	5				1	0
11月分	64	120,015	54	18				1	0
12月分	63	108,001	51	19	32	9	3	5	2
1月分	62	109,953	37	9	28	7	1	1	0
2月分	59	114,705	49	12	37	4	4	1	3
3月分	60	216,544	40	8	32	3	0	5	0

※1　9価ワクチンを含む　※2　1ヶ月内の複数回受診は1人とカウント　※3　新規患者のみ対象

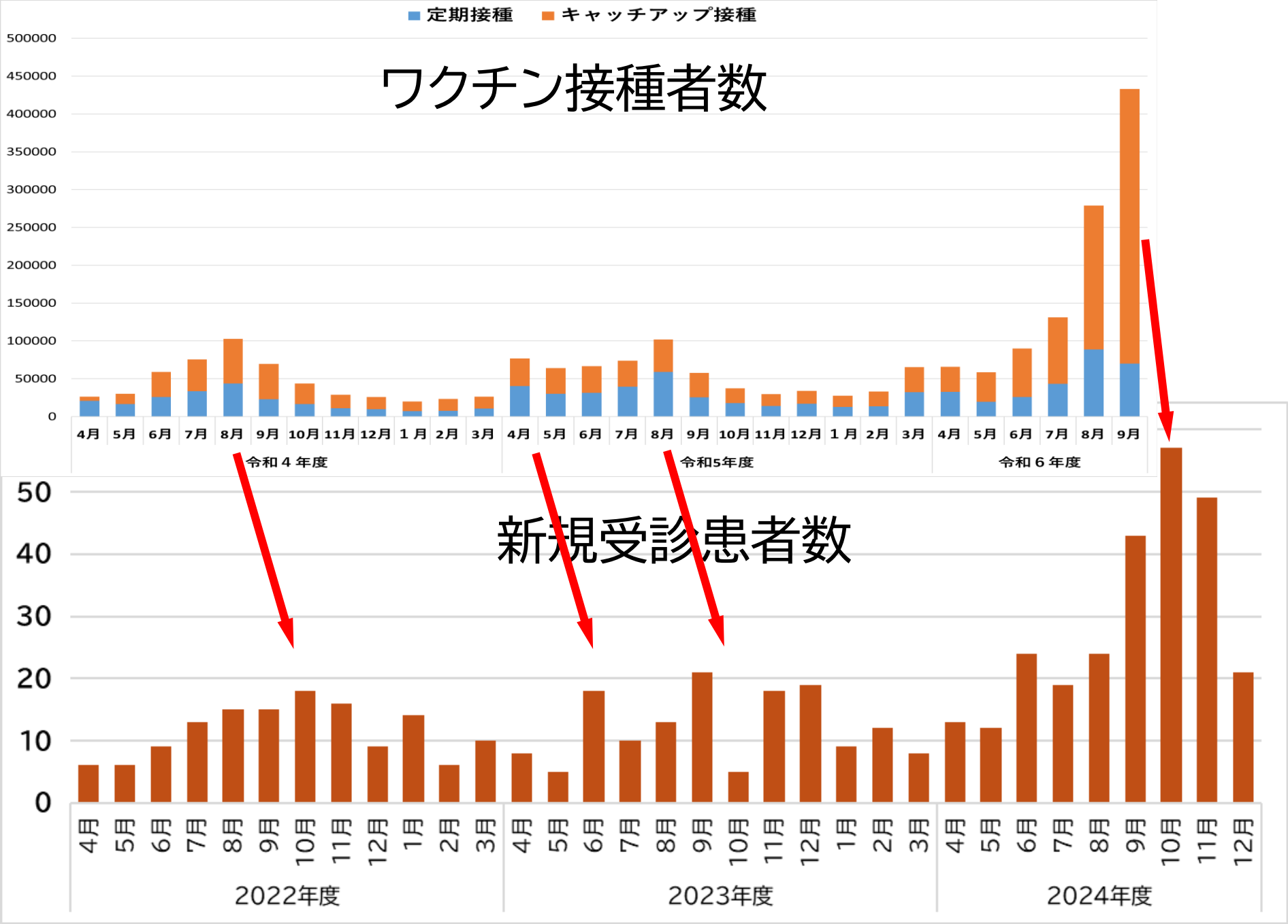
4

2023年度
新規受診患者
146人

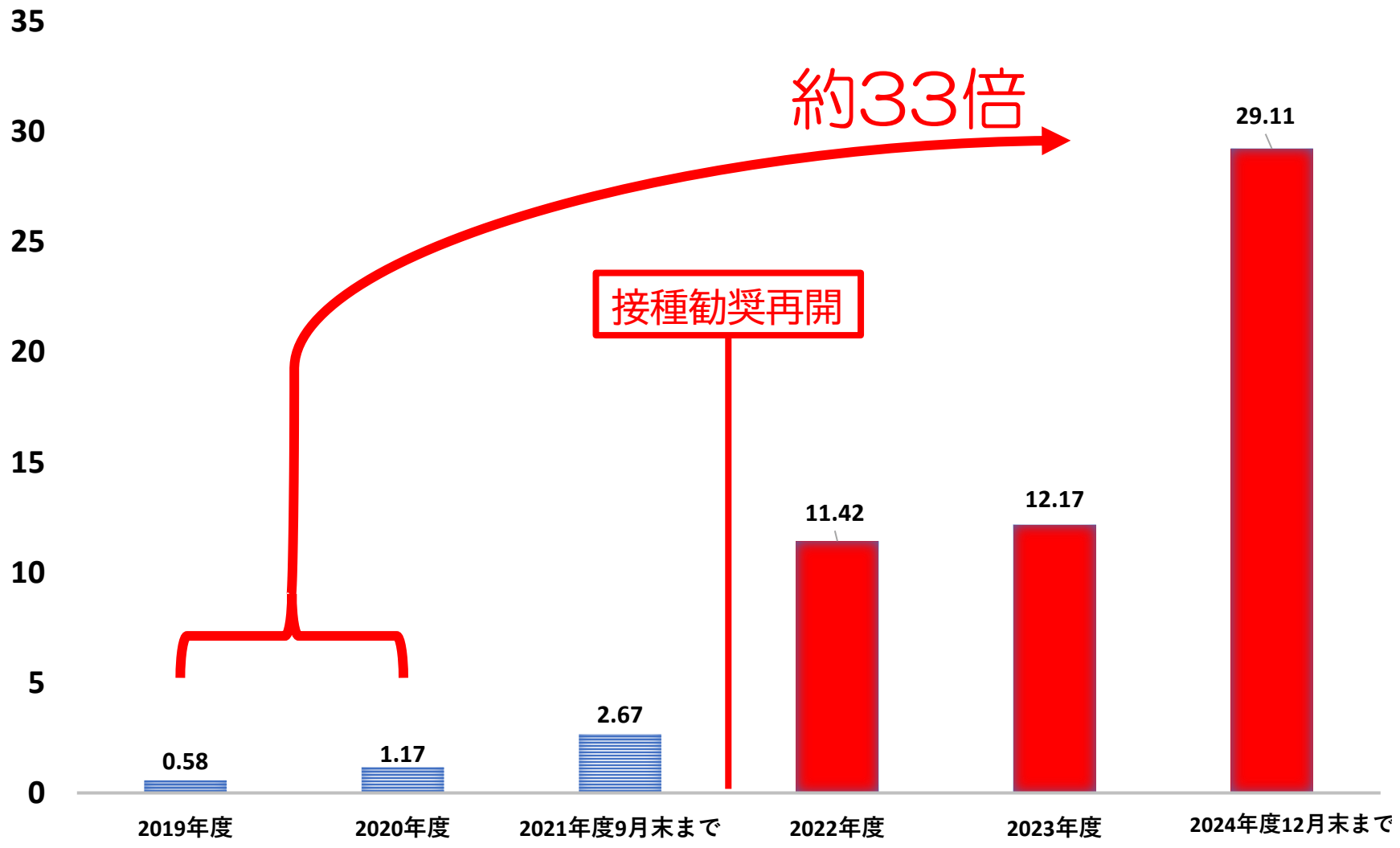
2024年度									
4月分	57	175,445	44	13				3	0
5月分	57	123,566	40	12				2	0
6月分	51	176,133	61	24				0	0
7月分	52	280,804	60	19				0	0
8月分	51	571,426	64	24				2	0
9月分	53	550,013	85	43				0	0
10月分	60	552,795	111	57	54	32	18	7	0
11月分	57	597,151	104	49	55	31	13	5	0
12月分	43	550,555	68	21	47	12	4	5	0

2024年度
新規受診患者
262人

新規受診患者数
勧奨再開後33か月で
545人


定期接種
キャッチアップ接種
ワクチン接種者数
500000
450000
400000
350000
300000
250000
200000
150000
100000
50000
0
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月
令和４年度
令和5年度
令和６年度
新規受診患者数
50
40
30
20
10
0
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月
2022年度
2023年度
2024年度

接種率が低かった頃と比べた新規受診者数の月平均値



1月24日合同会議でようやく報告された協力医療機関受診患者の一部のデータ

ブロック拠点病院を受診した患者44人のデータ

44人中37人が1ヶ月以内の発症　平均年齢 18.2歳（12－42歳）

接種回数

初回：21人、2回目：12人、3回目：10人

自覚症状

- **疼痛及び感覚（光・音・におい）の障害 25人**
- **運動障害 17人**
- **自律神経障害 11人**
- **認知機能障害 1人**

他覚所見ありまたは検査異常あり　17人

関節の可動制限、筋力低下、紅斑など

つけられた診断名

急性散在性脳脊髄炎もしくは多発性硬化症 1人
失神発作、起立性低血圧、不安神経症疑い
右肩甲下筋腱板炎、右小円筋腱板炎
ワクチン接種後肩関節障害 など

1月2 れた
協力医 ）

ブロッ ッ
44人中37人

接種回数

初回：21人、2回 人

自覚症状

- **疼痛及び感覚（光・音・におい）の障害 25人**
- **運動障害 17人**
- **自律神経障害 11人**
- **認知機能障害 1人**

つけられた診断名

急性散在性脳脊髄炎もしくは多発性硬化症 1人
失神発作、起立性低血圧、不安神経症疑い
右肩甲下筋腱板炎、右小円筋腱板炎
ワクチン接種後肩関節障害 など

1月24日合同会議でようやく報告された協力医療機関受診患者の一部のデータ

治療

薬物療法（プレガバリン、NSAIDs、アセトアミノフェン、漢方薬）、認知行動療法的アプローチ、運動療法

３か月以上経過をフォローできたのは半分（22人）だけ

症状が持続していることが確認できた症例 ： ８人

→３分の1以上が治っていない

この改善の中に「症状は続いているものの、学校や仕事に行けるようになった人」も入っている可能性が高い

原因は
びまん性の脳炎脳症の疑い

2023年7月3日福岡地裁
鹿児島大学高嶋博教授（自己免疫性脳炎脳症の世界的権威）
びまん性脳障害の一つである橋本脳症との症状の類似性
副反応患者が心因の反応であるとされ、治せるのに治せない
状態が続いているということについての憤り、治療をしたい
という強い思い→現状を変えるには司法の力が必要だ

さて子宮頸がん検診は？
添付文書にも必要だと書いてある

5. 効能又は効果に関連する注意

5.1 HPV6、11、16、18、31、33、45、52及び58型以外のHPV感染に起因する子宮頸癌又はその前駆病変等の予防効果は確認されていない。

5.2 接種時に感染が成立しているHPVの排除及び既に生じているHPV関連の病変の進行予防効果は期待できない。

5.3 本剤の接種は定期的な子宮頸癌検診の代わりとなるものではない。本剤接種に加え、子宮頸癌検診の受診やHPVへの曝露、性感染症に対し注意することが重要である。

5.4 本剤の予防効果の持続期間は確立していない。

厚労省リーフレットでも
接種後の子宮頸がん検診を推奨している

①今からできること

日本では、小学校6年～高校1年相当の女の子を対象に、
子宮けいがんの原因となるHPVの感染を防ぐ
ワクチンの接種を提供しています。
HPVの感染を防ぐことで、
将来の子宮けいがんを予防できると
期待されています。
カナダ、オーストラリアなどでは
女の子の8割以上がワクチンを受けています。

＋

②20歳になったらできること

HPVワクチンを
受けていても、
子宮けいがん検診は
必要です。
定期的に
検診を受けることが
大切です。

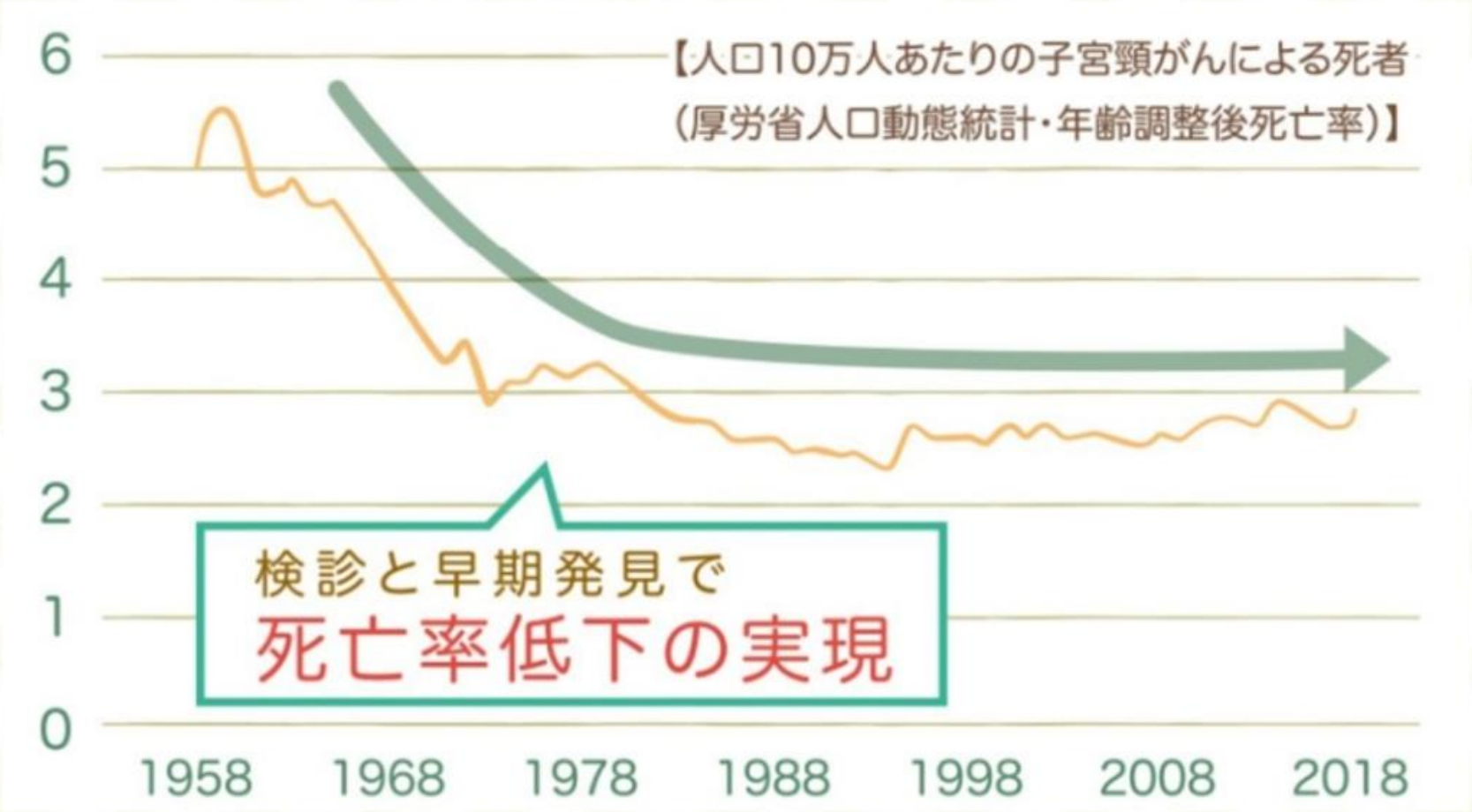
子宮頸がん検診は・・・

がん検診界の優等生

- 20歳以上の2年に1回の検診で、検診受診者の死亡率を減らせることが科学的に証明されている
- 早期がんだけではなく、前がん病変の段階で見つけることができる

→がんの予防が可能

（ワクチンのライバル）



“がんになる”前の発見と治療が重要

◆ 子宮頸がん検診を定期的に受けることで、前がん病変の段階で発見し、“がんになる前に”治療することが可能です。また仮にがんになっても初期であれば予後のよいがんです。（5年後に生存している率95.7%注1）2年に1度、きちんと検診を受けることがもっとも重要です。日本では子宮頸がん検診と衛生状況の改善によって、1970年代以降（ワクチンなしで）子宮頸がんによる死者を減らしてきました。

早期発見して助かっている実績を産婦人科医らは良く知っている

2021年の患者年報

2023年12月

報　　告

婦人科腫瘍委員会報告

2021 年患者年報

婦人科腫瘍委員会の 2021 年患者年報（2021 年 1 月 1 日～12 月 31 日治療開始症例）の報告をいたします（480 機関）。

従来から、患者年報のデータについては、本委員会で登録データを解析し、各登録機関への疑義照会を行っておりました。データのさらなる品質向上を目的として、2013 年患者年報よりデータマネージメントのシステムを見直し、プログラム化した疑義照会を実施しております。

なお、子宮頸癌では、本患者年報より進行期分類（日産婦 2020、FIGO2018）を採用いたしました。

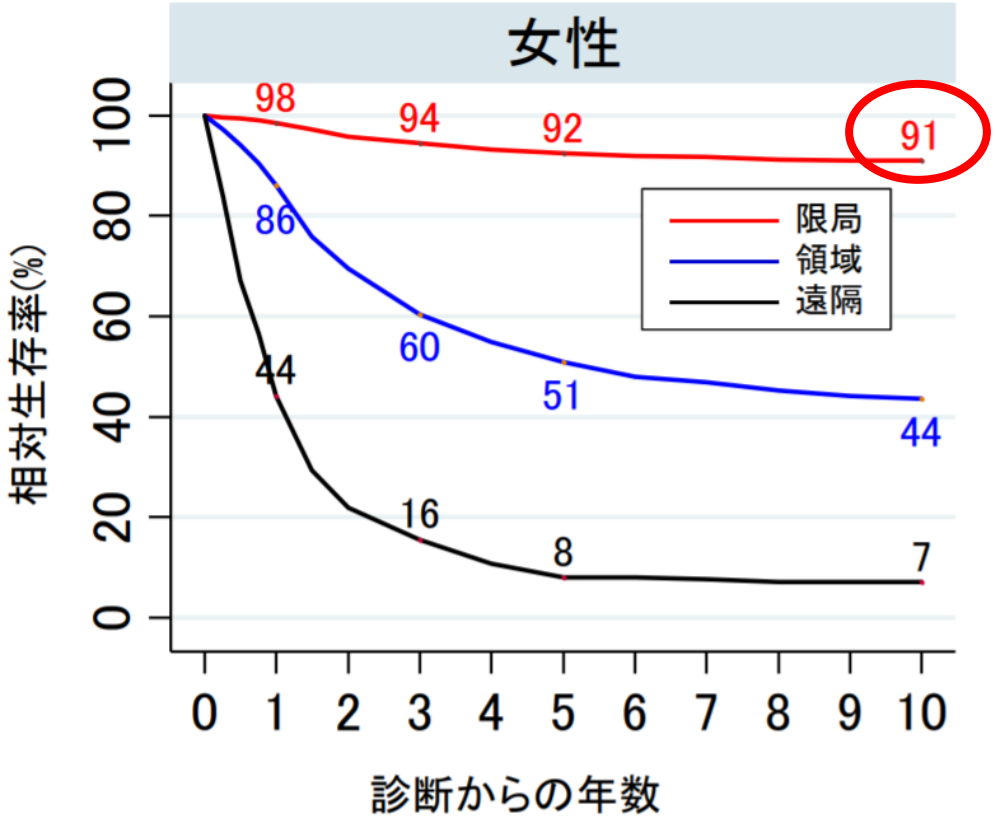
腫瘍登録に参加していただいた加盟機関の先生方の多大なご尽力に感謝申し上げ、また婦人科腫瘍委員会の全委員および統計解析の委託先である岩手医科大学教養教育センターに御礼申し上げます。今後とも患者年報・治療年報のさらなる充実を目指してまいりますので、ご協力賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

婦人科腫瘍委員会委員長　川名　敬

早期発見して助かっている実績を産婦人科医らは良く知っている

早期（限局性）で見つかると子宮頸がんの９割以上が治る

進行度別（2002-2006年のperiod analysisによる生存率）

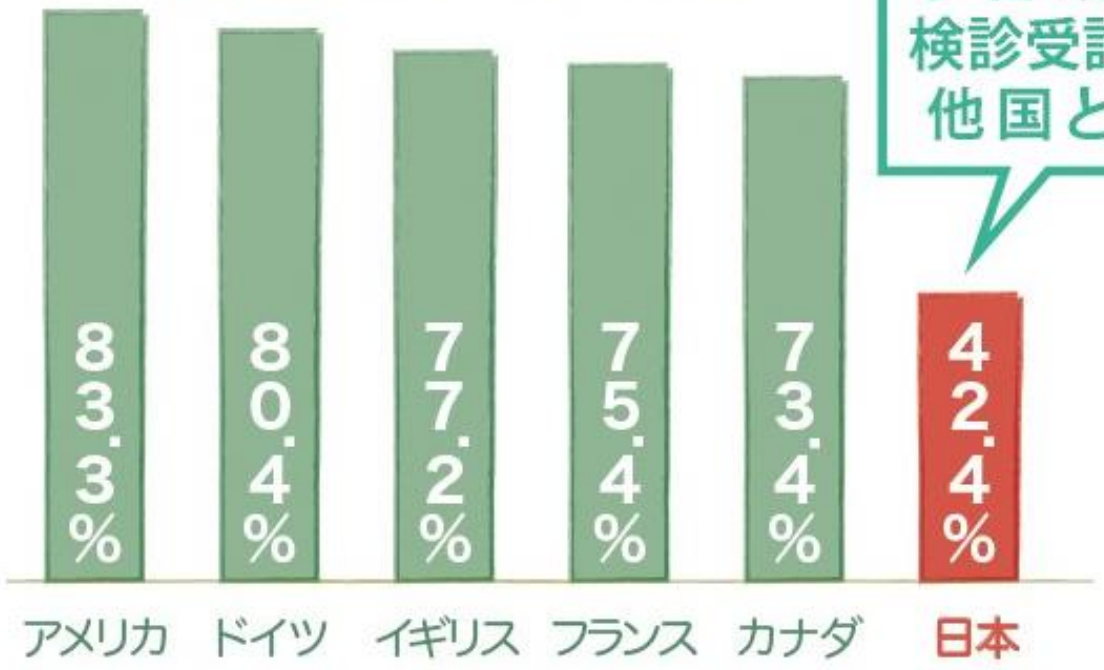


大阪国際がんセンター「地域がん登録資料に基づくがん患者の長期生存率
：1993-2006年～がん生存率の新しい見せ方～」

まだまだ低い日本の子宮頸がん検診率

日本の子宮頸がん検診受診率は約42%(2018年)。
80%前後が多い欧米先進国に比べ半分程度です。

内閣府男女参画白書平成30年版より抜粋



英国では検診受診率を上げるために
女性の”スメアテイカー”を育成・配置

普通のベッドで検診する様子をテレビで紹介

厚労省リーフレットに書いてある有効性

HPVワクチンの効果 詳細版 P4

HPVの中には子宮けいがんをおこしやすい種類(型)のものがあります。
HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぐことができます。
現在日本において受けられるワクチンは、防ぐことができるHPVの種類によって、
2価ワクチン(サーバリックス®)、4価ワクチン(ガーダシル®)、
9価ワクチン(シルガード®9)*の3種類あります。 *2023年4月から、シルガード®9も公費で受けられるようになりました。
サーバリックス®およびガーダシル®は、子宮けいがんをおこしやすい種類である
HPV16型と18型の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮けいがんの原因の50~70%を防ぎます※1。
シルガード®9は、HPV16型と18型に加え、ほかの5種類※2のHPVの感染も防ぐため、子宮けいがんの原因の80~90%を防ぎます※3。
また、HPVワクチンで、がんになる手前の状態(前がん病変)が減るとともに、
がんそのものを予防する効果があることもわかってきています。

※1・3 HPV16型と18型が子宮けいがんの原因の50~70%を占め(※1)、HPV31型、33型、45型、52型、58型まで含めると、子宮けいがんの原因の80~90%を占めます(※3)。
※2 HPV31型、33型、45型、52型、58型

しかし国内の大規模な疫学研究では

Received: 12 February 2022 | Revised: 2 June 2022 | Accepted: 9 June 2022
DOI: 10.1111/cas.15471

ORIGINAL ARTICLE

Cancer Science WILEY

Effectiveness of human papillo
precancer in Japan: Multivariat
activity

Risa Kudo[1] | Masayuki Sekine[1] | Manako
Sharon J. B. Hanley[3] | Megumi Kurosawa[1]
Etsuko Miyagi[5] | Sayaka Ikeda[6] | Asam

[1]Department of Obstetrics and Gynecology, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata, Japan
[2]Department of Preventive Medicine, Faculty of Medicine, Saga University, Saga, Japan
[3]Hokkaido University Center for Environmental and Health Sciences, Sapporo, Japan
[4]Departments of Obstetrics and Gynecology, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan
[5]Department of Obstetrics and Gynecology, Yokohama City University School of Medicine, Yokohama, Japan
[6]Center for Cancer Control and Information Services, National Cancer Center, Tokyo, Japan

Correspondence

Abstract
Japanese girls aged 1
nation and cervical ca
from the age of 20 yea
against cervical preca
aimed to analyze the v
abnormalities, adjuste
26 years who underwe
status from municipal
sexual activity. Of 519
women in the vaccina
1386 women in the u
vs 6.6%), and 31/33/45/52/58 (5.0% vs 9.3%) positive rates were significantly lower in the vaccinated group ($P < 0.001$). No women vaccinated before sexual debut had HPV 16/18-related cytological abnormalities. VE for HPV 16/18 infection and high-grade

国の研究費を使って行われた「ＨＰＶワクチンの有効性と安全性の評価のための大規模疫学研究」の2022年9月論文では「前がん病変（HSIL＋）に対するHPVワクチンの有効性を統計的有意差をもって示せなかった」と報告されています

※ＨＰＶワクチンの有効性と安全性の評価のための大規模疫学研究 新潟大学 工藤らの論文
https://doi.org/10.1111/cas.15471

しかし国内の大規模な疫学研究では

Received: 12 February 2022 | Revised: 2 June 2022 | Accepted: 9 June 2022
DOI: 10.1111/cas.15471

ORIGINAL ARTICLE

Cancer Science WILEY

Effectiveness of human papillomavirus vaccine against cervical precancer in Japan: Multivariate analyses adjusted for sexual

しかしながら

in multivariate analyses adjusted for age and number of sexual partners. However, analyses of all vaccinated women did not show significant effectiveness against cy-
tol 接種した女性全体の解析では統計的に有意な有効性を示せなかった cine against
high-grade cervical cytological abnormalities and the importance of the vaccination before sexual debut.

[a]Departments of Obstetrics and Gynecology, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan
[b]Department of Obstetrics and Gynecology, Yokohama City University School of Medicine, Yokohama, Japan
[c]Center for Cancer Control and Information Services, National Cancer Center, Tokyo, Japan

Correspondence
Masayuki Sekine, Department of Obstetrics and Gynecology, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences; Asahimachi-dori, Chuo-ward, Niigata, 951-8510, Japan.
Email: masa@med.niigata-u.ac.jp

Funding information
Japan Agency for Medical Research and Development, Grant/Award Number:

26 years who underwent cervical [illegible]eening in Niigata. We obtained HPV vaccination status from municipal records [illegible]stionnaire along with information concerning sexual activity. Of 5194 women [illegible]red for this study, final analyses included 3167 women in the vaccinated group [illegible] vaccinated women prior to sexual debut) and 1386 women in the unvaccinat[illegible]p. HPV 16/18 (0.2% vs 3.5%), 31/45/52 (3.4% vs 6.6%), and 31/33/45/52/58 ([illegible] 9.3%) positive rates were significantly lower in the vaccinated group ($P < 0.001$ [illegible]omen vaccinated before sexual debut had HPV 16/18-related cytological abno[illegible]s. VE for HPV 16/18 infection and high-grade cytological abnormalities in wo[illegible]cinated prior to sexual debut were 95.8% (95% CI 81.9–99.0%; $P < 0.001$) and [illegible] (95% CI 11.3–94.7%; $P = 0.033$), respectively,

in multivariate analyses adjusted for age and number of sexual partners. However, analyses of all vaccinated women did not show significant effectiveness against cy-tological abnormalities. Our results showed the effectiveness of HPV vaccine against high-grade cervical cytological abnormalities and the importance of the vaccination before sexual debut.

“世界中で接種されている”というが厚労省リーフレットの詳細版には

HPVワクチンのはじまりと世界での状況

HPVワクチンは、2006年に欧米で生まれ、使われ始めました。
日本では、2009年10月にワクチンとして承認され、接種が始まりました。

世界保健機関（WHO）が接種を推奨しており、
2024年1月時点ではWHO加盟国194か国のうち
137か国で公的な予防接種が行われています。
カナダ、オーストラリアなどの接種率は8割以上です。

日本での接種者は近年徐々に増えています。
日本の最新の接種状況は厚生労働省ホームページからご確認いただけます。

厚生労働省「定期の予防接種実施者数」 https://www.mhlw.go.jp/topics/bcg/other/5.html

<HPVワクチンを接種した女の子の割合（2022年）>

アメリカ	63.8%
カナダ	86.0%
イギリス	67.3%
イタリア	38.8%
ドイツ	53.4%
フランス	41.5%
オーストラリア	80.3%

※出典：WHO HPV vaccination coverage

130か国以上で公的接種

カナダ、オーストラリアなどでは接種率8割以上

日本での接種率は徐々に上昇中

世

Global ⊗ ×

HPV Vaccination coverage by age 15, first dose, females ⊗ ×

Advanced filter +

APPLY

世界では8割以上が打っている？？

↓

いや「8割は打っていない」が事実

Country / Region	Antigen	Data source	2023	2022	2021
Global	HPV Vaccination coverage by age 15, first dose, females	HPV	20%	20%	19%

全世界　HPVワクチン15歳未満女性

結論　厚労省の資料もよく読めば
接種がほんとうに必要かがわかる

自分で情報を確かめ、しっかり話し合って判断しましょう

20歳を過ぎたら２年に１度の子宮頸がん検診でがんの予防も可能

前がん病変で発見でき、経過観察→治療処置も

でも接種して重篤副反応になってしまったら

将来の夢をあきらめることになるかもしれない

→しかもちゃんとした治療は受けられないし

被害を訴えると嘘つき扱いされる

HPVワクチンの

ほんとうのことを知ってほしい

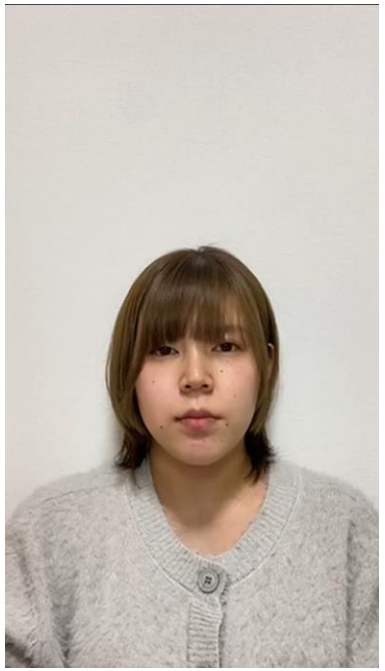
実行委員会

- 聞いて！わたしたちの声
- HPVワクチンは安全？
- 子宮けいがんで若い女性が亡くなってるって本当？
- 検診が“ライバル”ってどういう意味？
- 有効性のデータが見たい
- キャッチアップ接種のお知らせが来てるけど
- 副反応被害が出ているのは日本だけ？
- 海外の状況を客観的に教えて
- 2022年の接種再開以降副反応は出ている？
- ＼もっとしりたい／副反応とともに暮らしていく事
- この問題に寄りそう人たち
- 医療関係の方、詳しいデータを知りたい方へ

インスタグラムでも発信開始

kumakuni05

7 投稿　20 フォロワー　21 フォロー中

HPV ワクチンのほんとうのことを知って欲しい実行委員会
ワクチンの重い副反応にずっと苦しんでいる当事者です。
私たちが作ったポスターを見てください。
ポスターがいっぱい運動、展開中です。

kiyonohako.jimdofree.com